



瀬田東小だより

健康 ふれあい 創造

令和3年7月20日

児童数 969名

学級数 36学級



1学期の振り返り

1年生の作品→

【校訓の徹底】

- 心を込めて「あいさつ」をします
- 額に汗して黙々と「そうじ」をします
- 目と心と耳で「聴き」ます



瀬田東小に4月に赴任し目にしてきたのは、豊かに育つ子どもたちとそれを懸命に支え、サポートする職員の姿でした。

本校の教育は、「子どもが根本から変化してくる姿を必ず全職員で見届ける」という決意で取り組んでいます。そのことを具現化しているのが、左の校訓です。この校訓により磨かれた心は、子どもや大人（職員）を根本から成長させるものであると感じました。

○左の写真は、校訓のひとつ「もくもく掃除」の様子です。子どもと一緒に掃除をする職員の姿が子どもの成長を促し、年上の子どもが年下の子どもに教えています。強い言葉で指導するのではなく、やって見せてほめていくことが子どもの心の育ちの栄養となり、やがて子ども自身で判断し行動できる力になっていくと考えています。

このような姿は、毎朝昇降口に立って登校を出迎えているときにも見られます。上学年が1年生の手を引いて登校している姿に感心し、お兄ちゃんやお姉ちゃんのあいさつの仕方をまねて、立ち止まって心を込めてあいさつをする1年生の姿に、自分自身で伸びていこうとする力を感じました。どちらも心優しくほほえましい光景です。このような姿が見られるのは、職員の方だけではなく、校訓を継承し、学校を動かすエンジンとなっている頼もしい6年生の存在がその土台にはあります。6年生のリーダーとしての姿勢は、学校全体のよ

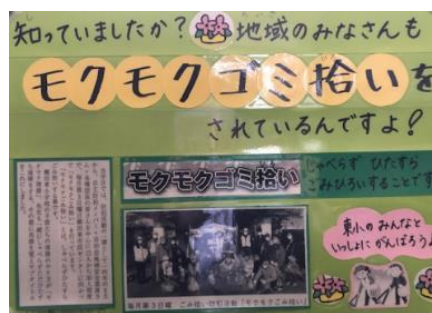
きお手本となり、下学年のあこがれとなる大変大きなものです。また、6年生の言葉や立ち振る舞いが本校の落ち着いた雰囲気をつくってくれています。

この1学期を振り返り、瀬田東小の健気に取り組む子どもたちの姿や子どもを励まし、ともに汗する職員の姿勢が本校教育の基礎をつくっていることを実感しました。

<コロナ禍で徹底的に子どもを励ます職員の姿勢>

- 毎日一日も欠かさず子どもを励ます。
- 心を込めて励ます。
- 子どもに語りかける。
- やってみようと思うことを企画する。
- 東小の子どもが少しでも元気になることを考える。
- コロナ禍でも楽しいことを考える。
- 毎日、子どもを笑顔にすることを考える。
- 考えたことはすぐに実行する。

本校教育が地域とともに歩みを進め、これからも子どもたちの笑顔を守っていけるように、2学期からもどうぞよろしくお願いいたします。



○6月11日（金）に行った「東小ドリームマッチ」は、運動会に変わるコロナ禍でできる行事として職員の「やってみようと思うことを企画する」という信念のもと生まれました。子どもたちは新記録を目指し、休み時間などを利用して繰り返し走り続け、運動場には自分に挑戦する子どもたちの姿がたくさん見られました。



また、写真は、ある学級が「東小ドリームマッチ」の本番に向けて体育授業を中心に取り組んできた授業風景です。



張り切って駆け出す子どもたち。担任が心を込めて子どもを励ます姿。そして、喜びを爆発させるハイジャンプ!!学んだことを振り返る子どもの姿。

「授業で子どもを育てる」ことを大事にして取り組んできた成果だと思っています。

6月の時期に学級の仲間と一生懸命に取り組み、喜びや悔しさを共有できる貴重な経験を積むことができました。また、コロナ禍ではありましたが、保護者の皆様にも見ていただく機会をつくることができ大変うれしく思っています。

2学期もこのような姿がたくさん見られるように、子どもの学びを大切にして取り組んでいきたいと思ひます。

○今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の懸念がある中でしたが、感染拡大防止対策を施し、夏休みをひかえた時期に水難事故や自然災害から自分の命を守るように、水の楽しさや恐ろしさを学年の発達段階に合わせて、下の写真のように水の中で楽しく活動したり、「長く浮いて待つ」方法などを学習したりしてきました。長引く梅雨空と7月に入ってからの連日の雷により、時間の変更を余儀なくされることも多かったのですが、どの学級も水の中で身体を動かす感覚を味わい、短い期間での実施でしたが無事に水泳学習を終えることができました。※低学年は、水を抜いた水深の浅い大プールで安心して学習することができました。



○ICTを活用した授業づくりは、今求められている授業スタイルです。国は、学校に1人1台の端末（タブレット）と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく個別最適化し、これからの時代に必要とされる資質・能力を一層確実に育成できるICT環境を実現すると説明しています。大津市においては、4年生以上に1人1台のタブレットを整備すると同時に高速大容量のネットワーク環境を整えました。1～3年生においては、順次整備を進めていくと聞いています。下の写真は、5年生の子どもたちがタブレットを使って学習のまとめをしたり調べ学習で学んだことを大型テレビとリンクさせてプレゼンテーションしたりしている様子です。また、社会科資料集に載っているQRコードを読み取り、それぞれ自分に合ったペースで米作りについての動画を視聴している様子です。今までなら模造紙にまとめて発表したり、写真だけの資料集で平面的に学んだり、NHKなどの番組を学級全員がテレビ1台で視聴したりしていたことを思うと、子どもたちの学びは格段に進歩しています。今後は、職員研修を重ねさらにICT機器を使った学びの可能性を探っていきたいと考えています。



○PTAの今年のスローガンは、『こどもたちの未来（あした）のために ～今、できることを～ 瀬田東応援団』です。私たち職員も同じ思いとともに、心強い言葉をいただいたと思っています。今もおコロナ禍で中止、制限される行事や活動はありますが、職員一丸となって子どもたちのために「今、できること」を考え、保護者の皆様の期待に応えられるよう「子どもを笑顔にする学校づくり」を目指して、瀬田東小教育のさらなる充実・発展に向け頑張っていきたいと思っています。引き続き、本校教育へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

☆9月1日(水)に子どもたちの笑顔に出会えることを心から楽しみにしています。

【文責:内藤】